

都市再生整備計画 事後評価シート
松戸駅周辺地区

令和4年3月

千葉県 松戸市

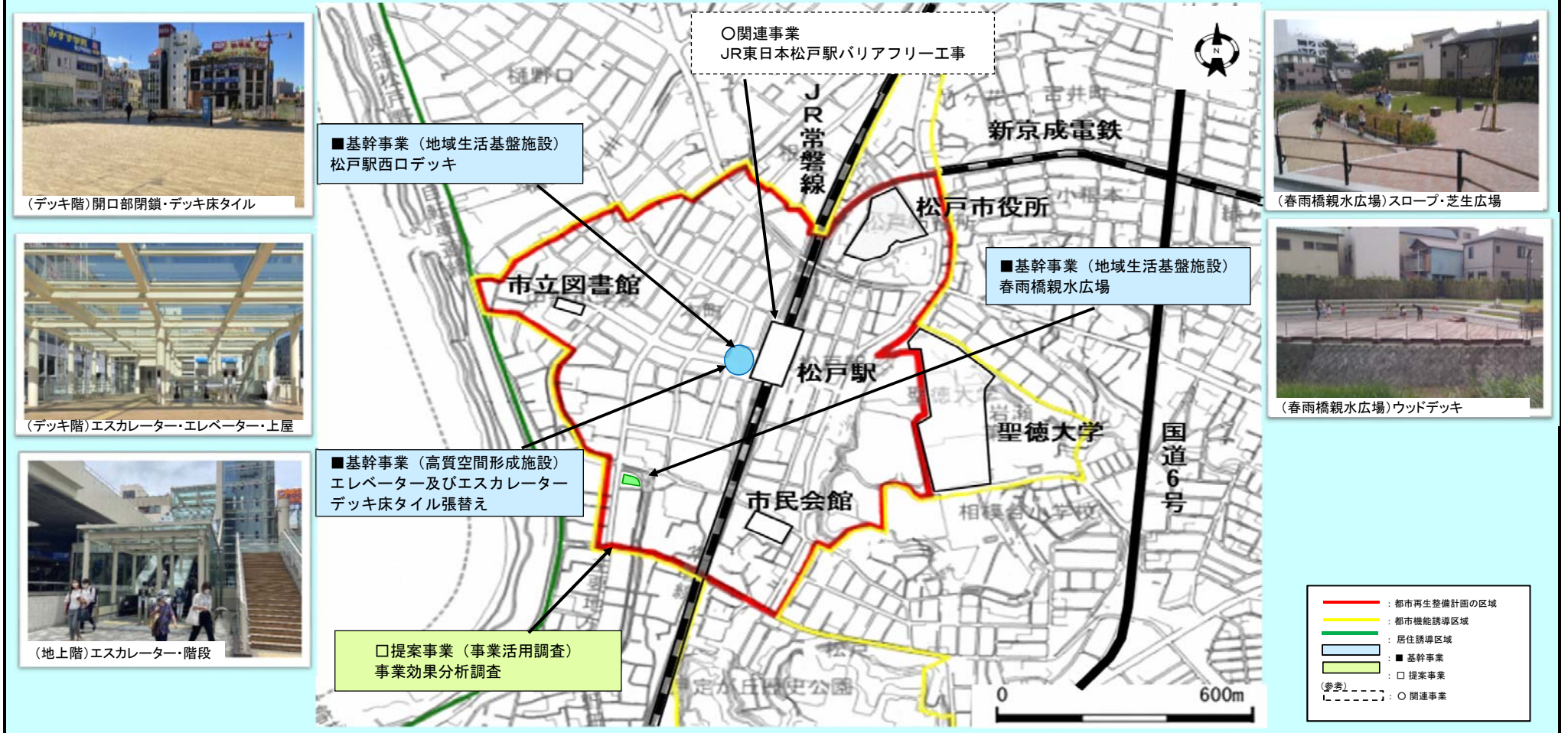
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	松戸市		地区名	松戸駅周辺地区		面積	65ha			
交付期間	平成28年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	1,112.9百万円(第4回変更)						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(広場):春雨橋親水広場 地域生活基盤施設(人工地盤等):松戸駅西口デッキ 高質空間形成施設(歩行支援施設):エレベーター及びエスカレーター										
		提案事業	なし										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設(歩行支援施設):デッキ床タイル		デッキの床について、滑り止め性能の向上や点字誘導ブロックの連続性確保を図るべく、タイルの張替えを追加			影響なし					
		提案事業	事業効果分析調査		本市の中心市街地における良好な市街地の形成を図るため、都市再生整備計画事業の効果を分析し、今後の事業展開について検討する。			影響なし					
	交付期間の変更	当初	平成28年度～平成32年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし						
	変更	平成28年度～令和3年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	駅周辺の利用満足度	%	39.0	H24	50.0	R3	モニタリング	評価値	達成度	あり	アンケート項目の全4項目のうち、3項目(「①まちの賑わいや買い物の便」、「②通勤・通学などの交通の便」、「③道路、公園、下水道などの都市施設」)については、満足度が増加していることから、駅周辺の利用満足度は従前値より3.9%増加している。 これは、松戸駅西口駅前広場整備により歩行者の安全性・利便性が向上されたこと、春雨橋親水広場整備により、地域の交流拠点が形成されたことが一因として考えられる。 一方で、アンケート項目の「④特色のある祭りや地域ぐるみのイベント」の満足度が減少しているため、全体的な満足度を引き下げる一因として考えられる。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、祭り等が開催できなくなったことが要因として考えられる。	-
	指標2	駅周辺の賑わいの創出件数	件/年	39	H26	50	R3		5	×	あり	計画当初には予測できなかった新型コロナウイルス感染症の影響により、松戸駅周辺においてイベントを実施することができなくなりましたことが、未達成の直接的な要因である。 しかしながら、地域の交流拠点となる春雨橋親水広場を整備したことにより、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前である令和元年度のイベント開催件数は42件であり、従前値より増加している。 また、松戸駅西口デッキにおいては、令和元年度にデッキ開口部の一部を閉鎖したことにより、滞留空間を整備したことから、今後イベント等で活用されることが期待できる。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値(比較値)	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	公園・広場誘致圏外解消率	%	-	H27	/	/	モニタリング	評価値	達成度	/	春雨橋親水広場の整備により、都市再生整備計画の区域内における、公園・広場による誘致距離圏外の区域が55.4%解消された。 この結果により、まちづくりの目標である、「にぎわいとやすらぎを感じるまちづくりの実現、滞留空間の整備に貢献したと考えられる。 また、市街地整備事業等の開発がなされていない区域において、新規の公園整備は大きな課題であった中で、既存のストックを活用した都市公園(緑地)に相当する公共空間の確保は非常に有用であると考える。	-
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 春雨橋親水広場を整備したことにより、日常的に人が集う姿が見られるようになり、にぎわいが創出された。 松戸駅西口駅前広場において、エレベーター及びエスカレーターの設置やデッキタイル張替えにより、安全性・利便性が向上しただけでなく、床が明るい木目調になったことによる景観の向上やデッキの開口部を閉鎖したことによりデッキに出た際に開放感を感じることができ快適性の向上が見られた。 												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		実施した		実施しなかった		●					
	住民参加プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 春雨橋親水広場整備工事説明会 松戸駅西口駅前広場整備における工事内容の説明 		実施した		実施しなかった		●					
持続的なまちづくり体制の構築	春雨橋親水広場の会		実施した		実施しなかった		●						
今後も事業を実施する際には、市民から理解や協力を得られるように、市民に対して丁寧に説明を行い、意見を聴取する機会を設ける。 今後も会が活動を継続できるような市は後方支援を行う。													

様式2-2 地区の概要

松戸駅周辺地区都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	従前値	目標値	目標値	従前値	目標値
大目標:本市の核にふさわしい”にぎわい”と”やすらぎ”を感じるまちづくりの実現 小目標①:やすらぎを感じられる駅前空間の整備 小目標②:魅力あふれる滞留空間の整備	駅周辺の利用満足度	%	39.0	H24	50.0	R3	42.9	R3
	駅周辺の賑わいの創出件数	件/年	39	H26	50	R3	5	R3



<p>まちの課題の変化</p>	<p>■達成されたこと(課題の改善状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口駅前広場において、エレベーター及びエスカレーターの設定、デッキ床タイル張替えによる滑り止め性能の向上、点字誘導ブロックを整備したことにより、歩行者の安全性・利便性が向上した。 ・松戸駅西口デッキの開口部を閉鎖したことにより、将来松戸駅改良事業により整備される東西通路の西口出口先における歩行者の通行空間及び新たな滞留空間を創出した。 ・水と緑、歴史あふれる坂川沿いに、春雨橋親水広場を整備したことにより、地域の歴史・文化の情報発信の場となるまちなかの憩いの空間が生まれ、地域の交流拠点が形成された。 <p>■残された未解決の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口駅前広場は整備途中であることから、引き続きバリアフリー化等の整備を進める必要がある。 <p>■事業を実施したことにより発生した新たな課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口デッキの開口部を閉鎖したことにより、デッキ下が暗くなっている。 ・春雨橋親水広場について、地域交流拠点以外の他の機能を付帯する検討が必要である。 ・春雨橋親水広場の周辺には、一般住宅が多いことから騒音に対する苦情などがある。
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<p>■効果を持続させるための基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口デッキ及び春雨橋親水広場の適正な維持、管理を図る。 ・松戸駅西口デッキ及び春雨橋親水広場を活用したイベント等、多岐にわたる活用方法を検討する。 ・公共サインの乱立を防ぎ、デザインの統一、情報の集約化、適切な維持管理、ユニバーサルデザインの推進を図る。 <p>■改善策の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口駅前広場については、JR東日本が行う松戸駅改良工事の整備状況を確認、調整しながら、引き続きバリアフリー化等の整備を進める。 ・松戸駅西口デッキについては、JR東日本が行う松戸駅改良工事に合わせて整備を進めていることから、JR東日本と協議をしながらデッキ下の環境改善について検討を行う。 ・松戸駅周辺地区は浸水想定区域内に該当し、揺れやすさも「中」程度となっているが、春雨橋親水広場については、震災などの災害発生時に駅近傍や都内からの帰宅者等が一時避難する滞留空間になると想定されることから、災害時における活用方法を検討する。 ・春雨橋親水広場における騒音対策として、利用者に対する注意喚起だけでなく、イベント開催時には周辺住民に対する周知を徹底することで理解を得るなど、広場の適正な管理、運用を行う。 <p>■想定される事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口デッキ及び春雨橋親水広場の維持管理 ・イベント開催等 ・「松戸駅周辺公共サインガイドライン」による公共サインの整備、維持管理 ・松戸駅西口駅前広場整備 ・春雨橋親水広場の管理運用業務

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域生活基盤施設(広場)	春雨橋親水広場	132.0	A=649.22㎡	194.8	A=649.22㎡	用地費(10百万円増)及び整備費(52.8百万円増)の増額	影響なし	●	
地域生活基盤施設(人工地盤等)	松戸駅西口デッキ	872.0	A=640㎡	471.8	A=640㎡	関連事業の松戸駅バリアフリー工事との施工調整により、一部整備に交付期間内の執行が見込まれないことによる減額	影響なし	●	
高質空間形成施設(歩行支援施設)	エレベーター及びエスカレーター	520.0		377.1		関連事業の松戸駅バリアフリー工事との施工調整により、一部整備に交付期間内の執行が見込まれないことによる減額	影響なし	●	
高質空間形成施設(歩行支援施設)	デッキ床タイル	—	なし	65.3	A=984㎡	松戸駅西口のデッキ床について、滑り止め性能の向上や点字ブロックの連続性確保を図るべく、タイルの張替えを追加	影響なし		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査	事業効果分析調査	-	なし	3.9	-	本市の中心市街地における良好な市街地の形成を図るため、都市再生整備計画事業の効果を分析し、今後の事業展開について検討する。	-		●
まちづくり活動 推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
JR東日本松戸駅バリアフリー工事		・エレベーター3基新設(全ホーム) ・3、4番ホームと5、6番ホームのエスカレーター移設及び増設 ・多機能トイレ新設 ・駅舎の耐震補強	-	-	着手:平成29年7月13日 ~ 完了:令和2年3月6日	-	完了	JR東日本公表資料による	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)	目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度			あり	なし	
指標1	駅周辺の利用満足度	%	令和3年7月に実施する市民意識調査の「快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合」の結果より把握する。	42.9	H13	39.0	H24	50.0	R3	モニタリング		モニタリング	
										事後評価	確定見込み ●	42.9	事後評価
指標2	駅周辺の賑わいの創出件数	件/年	令和3年度の松戸駅周辺のイベント実施件数により把握する。	-	-	39	H26	50	R3	モニタリング		モニタリング	
										事後評価	確定見込み ●	5	事後評価
指標3										モニタリング			
										事後評価	確定見込み		
指標4										モニタリング			
										事後評価	確定見込み		
指標5										モニタリング			
										事後評価	確定見込み		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	数値目標は達成に至っていないが、従前値より満足度の向上が見られた。春雨橋親水広場整備及び松戸駅西口駅前広場整備が一因していると考えられることから、△とした。	・当指標については、令和3年7月に実施した調査結果ではあるが、評価基準日【令和4年3月31日】における確定した評価値とする。 ・なお、今回実施した市民意識調査の結果については、令和2年度実績値として公表をされるが、今回の事後評価においては、令和3年度中に調査を実施していることから、令和3年度の評価値として扱う。
指標2	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度より駅周辺のイベントの開催が難しい状況のため、目標に達することができなかったことから、×とした。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの開催が難しい状況のため、目標が未達成になることは明らかであることから、見込みのイベント開催件数ではあるが、この数値を評価基準日【令和4年3月31日】における確定した評価値とする。
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	公園・広場誘致距離圏外解消率	%			-	H27	モニタリング		地域の交流拠点となる春雨橋親水広場の整備に伴い、やすらぎやにぎわいが創出されたことを表す指標としてふさわしいため。	
							事後評価	確定 ● 見込み		
その他の数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・春雨橋親水広場を整備したことにより、日常的に人が集う姿が見られるようになり、にぎわいが創出された。
 ・松戸駅西口駅前広場において、エレベーター及びエスカレーターを設置やデッキタイル張替えにより、安全性・利便性が向上しただけでなく、床が明るい木目調になったことによる景観の向上やデッキの開口部を閉鎖したことによりデッキに出た際に開放感を感じることができ快適性の向上が見られた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
春雨橋親水広場整備工事説明会	予定どおり実施した	平成29年2月24日に「松戸宿坂川河津桜まつり実行委員会」に対して、整備内容に関する説明を行い、意見聴取を行った。 ● ※松戸駅周辺地区都市再生整備計画の作成前ではあるが、「松戸駅周辺まちづくり基本構想」を策定する際に説明会や意見公募等を実施している。	今後も事業を実施する際には、市民から理解や協力を得られるように、市民に対して丁寧に説明を行うことや意見を聴取する機会を設ける。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
松戸駅西口駅前広場整備における工事内容の説明	予定どおり実施した	工事着手前に商店会及び町会長に工事内容の説明を行った。 ● ※松戸駅周辺地区都市再生整備計画の作成前ではあるが、「松戸駅周辺まちづくり基本構想」を策定する際に説明会や意見公募等を実施している。	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
春雨橋親水広場の会	予定どおり実施した	● 花が植えられるように花壇の整備 利用申請書の常時受付	春雨橋親水広場の会： 春雨橋親水広場の花壇の管理	今後も会が活動を継続できるよう市は後方支援を行う。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
松戸駅周辺地区都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	危機管理課、政策推進課、商工振興課、都市計画課、新拠点整備課、公園緑地課、建設総務課、道路維持課、河川清流課、街づくり課	令和3年11月19日	街づくり課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1			
指標名		公園・広場誘致距離圏外解消率			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設(広場):春雨橋親水広場	◎	春雨橋親水広場の整備により、都市再生整備計画の区域内における、公園・広場による誘致距離圏外の区域が55.4%解消された。 この結果により、まちづくりの目標である、にぎわいとやすらぎを感じるまちづくりの実現、滞留空間の整備に貢献したと考えられる。 また、市街地整備事業等の開発がなされていない区域において、新規の公園整備は大きな課題であった中で、既存のストックを活用した都市公園(緑地)に相当する公共空間の確保は非常に有用であるとする。		
	地域生活基盤施設(人工地盤等):松戸駅西口デッキ	—			
	高質空間形成施設(歩行支援施設):エスカレーター及びエレベーター	—			
	高質空間形成施設(歩行支援施設):デッキ床タイル	—			
提案事業	事業活用調査(事業効果分析調査)	—			
関連事業					

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地域の交流拠点として整備した春雨橋親水広場の適正な維持、管理を図るとともに、広場を活用したイベント等、多岐にわたる活用方法を検討し、公共空間の利活用を推進する。
-------	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1			指標2		
指標名		駅周辺の利用満足度			駅周辺の賑わいの創出件数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	地域生活基盤施設(広場):春雨橋親水広場	△	アンケート項目の全4項目のうち、3項目(「①まちの賑わいや買い物の便」、「②通勤・通学などの交通の便」、「③道路、公園、下水道などの都市施設」)については、満足度が増加していることから、駅周辺の利用満足度は従前値より3.9%増加している。 これは、松戸駅西口駅前広場整備により歩行者の安全性・利便性が向上されたこと、春雨橋親水広場整備により、地域の交流拠点が形成されたことが一因として考えられる。 一方で、アンケート項目の「④特色のある祭りや地域ぐるみのイベント」の満足度が減少しているため、全体的な満足度を引き下げの一因として考えられる。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、祭り等が開催できなくなったことが要因として考えられる。	III	△	計画当初には予測できなかった新型コロナウイルス感染症の影響により、松戸駅周辺においてイベントを実施することができなくなってしまったことが、未達成の直接的な要因である。 しかしながら、地域の交流拠点となる春雨橋親水広場を整備したことにより、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前である令和元年度のイベント開催件数は42件であり、従前値より増加している。 また、松戸駅西口デッキにおいては、令和元年度にデッキ開口部の一部を閉鎖したことにより、滞留空間を整備したことから、今後イベント等で活用されることが期待できる。	III
	地域生活基盤施設(人工地盤等):松戸駅西口デッキ	△					
	高質空間形成施設(歩行支援施設):エスカレーター及びエレベーター	△					
	高質空間形成施設(歩行支援施設):デッキ床タイル	△					
提案事業	事業活用調査(事業効果分析調査)	-			-		
関連事業							

※目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	アンケート結果から「特色のある祭りや地域ぐるみのイベント」に対して満足度が減少していることから、イベント開催や地域交流の促進等を検討し、公共空間の利活用を推進する。 また、良好な景観形成や松戸駅西口駅前広場整備を引き続き実施することで駅周辺の利用満足度の向上を図る。	本市の特性を生かしたイベントを検討する。また、コロナ禍におけるイベントの多様な開催方法や持続可能な街づくり体制の構築について検討する。
------------------	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
松戸駅周辺地区都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	危機管理課、政策推進課、商工振興課、都市計画課、新拠点整備課、公園緑地課、建設総務課、道路維持課、河川清流課、街づくり課	令和3年11月19日	街づくり課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前のまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
歩行者が安全・安心で快適に移動できるようなユニバーサルデザインに配慮した基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口駅前広場において、エレベーター及びエスカレーターの設置、デッキ床タイル張替えによる滑り止め性能の向上、点字誘導ブロックを整備したことにより、歩行者の安全性・利便性が向上した。 ・松戸駅西口デッキの開口部を閉鎖したことにより、将来松戸駅改良事業により整備される東西通路の西口出口先における歩行者の通行空間を創出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口駅前広場は整備途中であることから、引き続きバリアフリー化等の整備を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口デッキの開口部を閉鎖したことにより、デッキ下が暗くなっている。 ・春雨橋親水広場について、地域交流拠点以外の他の機能を付帯する検討が必要である。 ・春雨橋親水広場の周辺には、一般住宅が多いことから騒音に対する苦情などがある。
オープンスペースを活用した賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑、歴史あふれる坂川沿いに、春雨橋親水広場を整備したことにより、地域の歴史、文化の情報発信の場となるまちなかの憩いの空間が生まれ、地域の交流拠点が形成された。 ・松戸駅西口デッキの開口部を閉鎖したことにより、新たな滞留空間を創出した。 		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	松戸駅西口デッキの維持・管理及び活用	・松戸駅西口デッキの適正な維持、管理を図る。 ・松戸駅西口デッキを活用したイベント等、多岐にわたる活用方法を検討する。	・松戸駅西口デッキの維持管理 ・イベント開催等
	春雨橋親水広場の維持・管理及び活用	・春雨橋親水広場の適正な維持、管理を図る。 ・広場を活用したイベント等、多岐にわたる活用方法を検討する。	・春雨橋親水広場の維持管理 ・イベント開催等
	公共サインの整備、維持管理	・公共サインの乱立を防ぎ、デザインの統一、情報の集約化、適切な維持管理、ユニバーサルデザインの推進を図る。	・「松戸駅周辺公共サインガイドライン」による公共サインの整備、維持管理

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	松戸駅西口駅前広場におけるバリアフリー化	・JR東日本が行う松戸駅改良工事の整備状況を確認、調整しながら、引き続き松戸駅西口駅前広場のバリアフリー化等の整備を進める。	・松戸駅西口駅前広場の整備
	松戸駅西口デッキ下の環境改善	・JR東日本が行う松戸駅改良工事に合わせて整備を進めていることから、JR東日本と協議をしながらデッキ下の環境改善について検討を行う。	
	春雨橋親水広場における地域交流拠点以外の他の機能付帯	・松戸駅周辺地区は浸水想定区域内に該当し、揺れやすさも「中」程度となっているが、春雨橋親水広場については、震災などの災害発生時に駅近傍や都内からの帰宅者等が一時避難する滞留空間になると想定されることから、災害時における活用方法等を検討する。	・春雨橋親水広場の管理運用業務
春雨橋親水広場における騒音対策	・利用者に対する注意喚起だけでなく、イベント開催時には周辺住民に対する周知を徹底することで理解を得るなど、広場の適正な管理、運用を行う。		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標			従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	評価値	評価値			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	駅周辺の利用満足度	%	39.0	H24	50.0	R3	確定 ●	42.9	△	あり	なし	—	当指標については、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みると、1年以内に目標を達成する見込みはないと考えられる。 また、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮していない従前値及び目標値に対して、影響を受けると考えられる来年度以降の数値と比較しても事業効果を適確に検証することはできないと考えられる。 以上の理由より、フォローアップを目的とした計測は行わない。
							見込み			なし ●			
指標2	駅周辺の賑わいの創出件数	件/年	39	H26	50	R3	確定 ●	5	×	あり	なし	—	新型コロナウイルス感染症の影響は、今後も継続が見込まれるため、コロナ禍前と同様にイベントを開催することができない状況が続くと考えられる。そのうえ、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮していない従前値及び目標値に対して、影響を受けると考えられる来年度以降の数値と比較しても事業効果を適確に検証することはできない。 また、当指標については、松戸駅周辺地区都市再生整備計画(第2期)において、引き続き指標として採用しているため、2期計画の事後評価時にフォローアップの目的とする進捗状況の確認を行うことが可能である。 以上の理由より、フォローアップを目的とした計測は行わない。
							見込み			なし ●			
その他の数値指標1	公園・広場誘致距離圏外解消率	%	—	H27			確定 ●	55.4			なし	—	—
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・駅周辺の賑わいの創出件数は、毎年計測している数値であることから、把握が容易であった。	・指標については、不定期に実施される調査の数値を指標として採用した場合、調査年度と事後評価の実施年度が一致しない時に評価値の推計に苦慮するので、毎年計測されている数値を採用することが望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・事業に関する情報は、HPを活用し、市民等に対して積極的に情報公開を行った。また、説明会の開催や工事着手前に近隣の商店会や町会長に工事内容の説明を行ったことにより、市民等の理解や協力が得ることができた。	・まちづくりにおいて、住民等の理解や協力を得るために、情報発信や丁寧な説明、住民参加の機会を設けることが望ましい。
	うまくいかなかった点	・特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

松戸駅周辺地区については、令和4年度以降も引き続き都市再生整備計画(第2期)により、事業を実施する予定。今回の事後評価の経験を踏まえ、第2期計画においては、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和4年1月17日～31日	令和4年1月17日～31日	街づくり課へ持参、 FAX、電子メール、 千葉電子申請サービス	街づくり課
広報掲載・回覧・個別配布	広報まつど1/15号に掲載	令和4年1月15日	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	街づくり課窓口での閲覧	令和4年1月17日～31日	令和4年1月17日～31日		

・特になし

住民の意見	<p>昨年末、市役所移転計画の臨時集会在市民会館にて開催された際、伺いたかったのですが夜間でしたので不参加しました。今回の松戸駅周辺地区都市再生整備にも通じる部分がありますので、是非ご検討いただければと思います。松戸市に住んで半世紀、3人の子育てや97歳の母の老々介護継続中を含め、ようやく松戸市への恩返しを思う今日この頃です。病院への勤務をこなしながら、ささやかな地域のボランティア活動も経験し、今は郷土としてのこの地が気に入っています。具体的には、松戸市の歴史です。特に駅周辺や松戸中央公園と隣接の相模台公園の故事来歴です。中央公園に至っては、かつては競馬場や軍隊の施設があったりと、かなりの遍歴を重ね、現在の姿となっているようです。きっかけは大佐倉の城址を訪ねた際、千葉県城跡に詳しいガイドボランティアの方が、松戸の遍歴も語られておりました。昨今の流行で、古城の御城印や城址巡りで街おこしも見られます。松戸市の古い歴史を改めて考えてみませんか？ニュータウン的な開発も良いですが、まずは足元を知るのも街の魅力に加えて頂けずと有難いです。宜しくお願い致します。</p>
-------	---

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	横張 真 教授 (東京大学大学院工学系研究科) 秋田 典子 教授 (千葉大学大学院園芸学研究院) 轟 朝幸 教授 (日本大学理工学部交通システム学科)	令和4年2月24日	街づくり課	松戸駅周辺地区都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	既存機関(松戸駅周辺まちづくり委員会)から人選
その他の委員					
審議事項※1		委員会の意見			
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし			
	成果の評価	・整備による効果は表れている。しかし、今回は新型コロナウイルス感染症により目標を達成していないだけなので、目標未達成の影響とは分けて評価をするべき。 ・新型コロナウイルス感染症の影響の算出方法についての指針がない限り、コロナの影響を加味した評価はできないので、定性的な評価にならざるを得ない。			
	実施過程の評価	・特になし			
	効果発現要因の整理	・春雨橋親水広場や松戸駅西口駅前広場の整備は、ピフォーアフターが劇的である。特に春雨橋親水広場は、市内にこのような親水空間はなく、松戸の新しい景観としても評価されているので、もっと良い評価をすべき。 ・今回は新型コロナウイルス感染症の影響が非常に大きく、目標が未達成となったので、新型コロナウイルス感染症の影響については、しっかりと記述した方が良い。			
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし			
	その他	・特になし			
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・上記意見を付帯する形で、事後評価手続きは妥当である。			
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<p>■春雨橋親水広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場は、舗装がタイルで、日陰がないため、子どもたちが遊ぶには、潤い不足と感じられ、夏場は使いづらい印象がある。日陰対策として、シンボルツリーが育つまでは、パラソルのようなものを暫定的に設置する等の検討が必要である。 ・松戸駅周辺において、春雨橋親水広場のような空間が少ないので、騒音については、おおらかに受け止めることはできないか。節度のある程度守れば、ナイトタイムエコノミーの側面から、松戸の経済に貢献していると思っても良いのではないだろうか。広場の使い方が逸脱しないように、誘導することが大事である。例えば、若者だけでなく、様々な年代の人が集えば、そこで若者が騒ぐようなことにはならない、というような誘導の仕方もある。 ・広場だけの整備ではなく、周りとの一体感、周辺の整備という点も重要である。歩きやすい歩道、最近だとウォークアブルといった表現がよく使われるが、そういったことも含めて整備が進められることを期待したい。 <p>■松戸駅西口駅前広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅西口は、西側にある江戸川に対する軸線が非常に弱く、江戸川方向にベクトルが向かないことについては、改善の余地がある。 ・デッキ上は歩行者の動線が確保でき、良い空間となっているが、グランドレベルは車両の動線が輻輳していることから、安全性について検討する必要がある。今後は、デッキ部分だけでなく、地上階も含めて整備を進めていただきたい。課題として挙げているデッキ下(地上階)の暗さについては、LEDなどで明るく出来るため、特段問題は感じない。 ・駅は人や車両が集中するポイントなので、どう効率良く配置していくかが重要になる。カーボンニュートラルという時代に合わせ、車に頼らないというまちづくりを検討する必要がある。今後は、環境に優しいバスの誘導や自転車推進すること、また、開発などにより、リニューアルされる周辺施設との関係を考慮した動線を検討する必要がある。 ・短期的に松戸駅西口をどう整備するか、中期的に松戸市全体の交通計画といかなくても松戸駅西口の動線計画を含めた交通計画をどうするか、長期的に松戸市全域の交通のあり方をどうするかというスケール感で検討していく必要がある。特に、中長期的には、withコロナの中でどういうまちづくりをするのかというビジョンをきちんと持ち、その中から考えていく必要がある。 			
	フォローアップ	・特になし			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・住民意見にあるとおり、歴史を改めて考え、反映させることは重要である。ハード整備でなくても、例えば案内看板にQRコードを載せて、携帯電話で読み込むとその歴史がわかるようにするなど、ソフトな仕組みも考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症により、「賑わい」の意味が随分と変わった。従来であれば、賑わい＝同時滞留する人の数が多いことであったが、同時滞留する人が多いということは、むしろマイナスだと言われ、社会通念として形成されてきている以上、賑わいという言葉の意味合いは変わってきている。今後、新型コロナウイルス感染症がある程度収束したとしても、以前のように多くの人が同時滞留するのに戻るには相当時間もかかる。今までのように、特定の時間や曜日に、多くの人が集まることを賑わいとして考えることを抜本的に変え、「賑わい」について、広く捉え直していただきたい。ピーク時と閑散時のギャップが非常に大きいのに、様々なファシリテはピーク時に合わせて整備するため、結果的に平日は閑散としている。ピーク時に合わせた形のインフラ整備ではなく、平準化した中における適正なインフラのレベルとは何なのか、そこで回る経済とは何なのかなど、ここを考えていく重要になる。今後の社会のありようとの絡みの中で、賑わいをどのように再定義し、どのようにまちづくりの中で展開していくのかということが一番大事になる。適度な密度で、且つ人々が様々な時間帯に、様々な形で滞留したり、利用することが賑わいになり、そういった観点のまちづくりが今問われている。 			
		今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・上記意見を付帯する形で、今後のまちづくり方策は妥当と認められた。		
その他		・春雨橋親水広場と松戸駅西口駅前広場だけではなく、松戸市の今後のまちづくり全般においても、コロナの前に戻る想定ではなく、社会の変化に応じた新しいまちづくりを進めていただきたい。大きな商業施設を作るのではなく、今までとは違う方法により、人を呼ぶ仕掛けを考えることが必要である。松戸駅の東口についても、コロナによる社会の変化を踏まえた形での検討をしてほしい。			

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—		

有識者の意見	—
--------	---